

福島市と飯坂温泉

福島市及び飯坂温泉名勝鳥瞰図

文・藤本一美

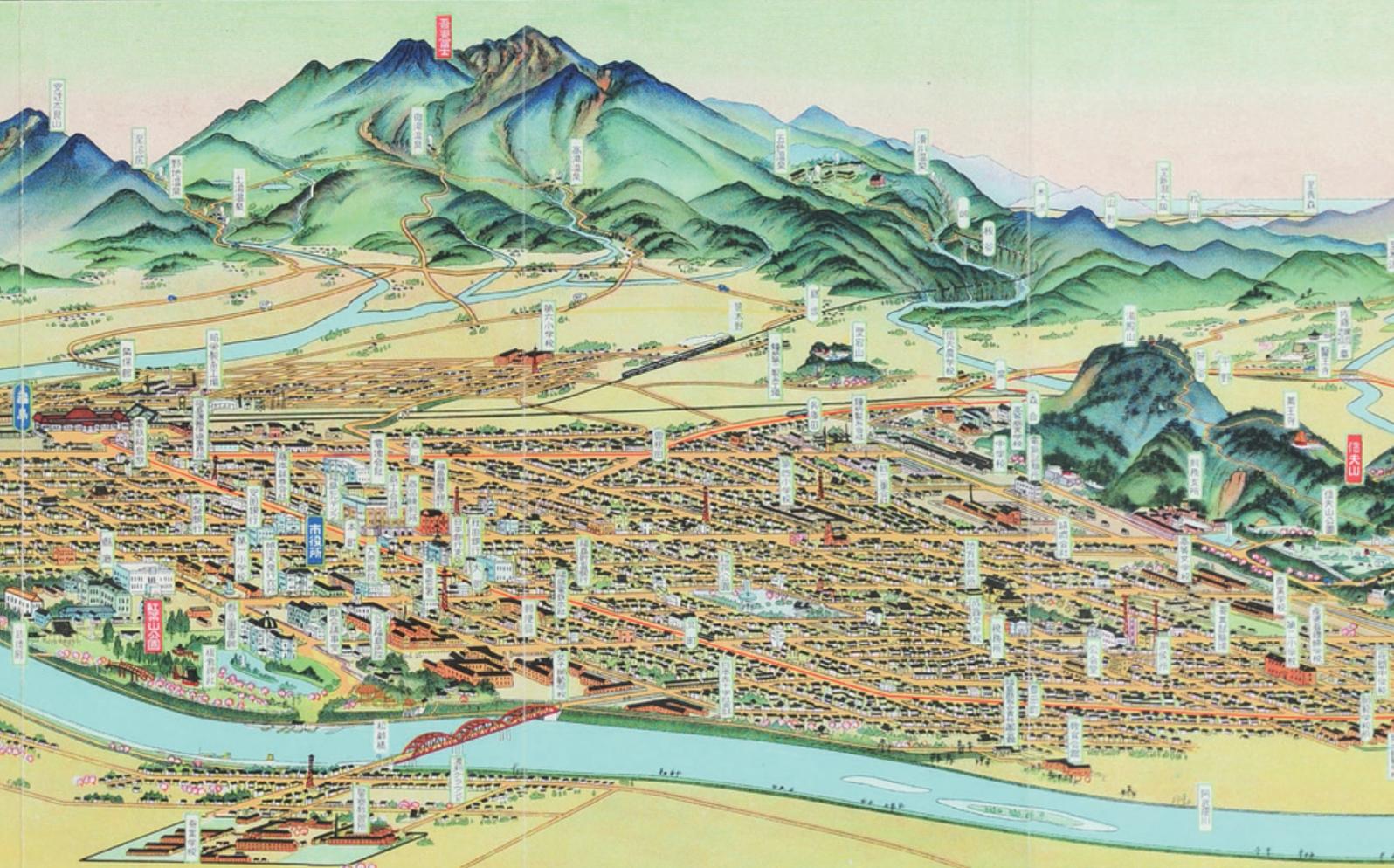
text by Kazumi FUJIMOTO

福島市内に本社を置く福島交通は、大正十三年四月十三日開業（福島―花水坂間）の福島飯坂電気軌道を前身の一つとする。昭和二年三月二十三日には、花水坂―飯坂間まで延伸し（現・飯坂線）、東北有数の温泉地・飯坂温泉と福島市内を結ぶ路線である。「いいでん」の愛称で親しまれ、観光のほか通勤・通学的手段としても地元の人々に利用されている。

飯坂温泉にある九つの共同湯の湯めぐり旅もよいが、沿線は果物王国福島だけに、春のサクランボやモモ、秋のナシ、リンゴ、イチジクなど季節の味覚を楽しむこともできる。

本図は、昭和九年四月二十日発行の作品であるため、昭和四十二年星光学院前―湯野町間軌道廃止や、昭和四十六年福島駅前―伊達駅前および長岡分起点―保原間、保原―梁川間、保原―掛田間軌道廃止の路線

藤本一美
首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版 2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『福島市と飯坂温泉
[福島市及び飯坂温泉名勝鳥瞰図]』
(昭和9(1934)年4月20日発行)
福島市役所 発行
犬山木曾江畔 吉田初三郎 著作権者
京都市八条東洞院東入 観光社出版部 印刷

県民の足として走り続ける。 通勤・通学電車、観光電車の「いいでん」。

福島県を地盤にバス事業、鉄道事業を運営している。バス事業では、福島県中通り地方と浜通り北部で営業する路線バス事業のほか、福島駅・郡山駅と各地を結ぶ高速バス事業を運営。鉄道事業では、JR福島駅を起点に飯坂温泉までを結ぶ9.2kmの飯坂線を運営している。

元々は軌道路線で、福島-飯坂温泉間の飯坂西線、福島-長岡-湯野町間の飯坂東線の2路線を運行していた。飯坂西線は、昭和20年3月に軌道から地方鉄道法による鉄道に変更。その後、モータリゼーションの進展により、昭和46年4月、飯坂東線の全線廃止が決まった。

愛称は「いいでん」。通勤・通学利用の利便性向上を図り、電車内に自転車を持ち込めるサイクルトレインを通年実施している。また、平成27年4月からは電車もバスも利用できるICカード「NORICA」が導入されている。



福島交通株式会社 Fukushima Transportation, Inc.

設立：明治40年8月1日
本社：福島市東浜町7-8



が存在しているので、当時の状況を知ることができるのは有難い。

当時の国鉄は黒の実線に対し、民鉄は赤の実線で図示。春の山を基調にピンクの桜の開花を明るく表現。飯坂などの温泉の湯煙の在りかは、湯治場がいかにたくさんあるかを教えてくれるのだ。

特異の大胆な構図は、福島市東側上空から俯瞰する視点で福島市街地と飯坂温泉街を全体の七割を占める表現法で立体化し、県庁舎や市役所、電鉄福島駅舎、電鉄本社、銀行、病院、学校、図書館など、平面地図としても使える巧みさだ。阿武隈の流れも雄大である。

背後の吾妻・安達太良連峰と福島市民の山・信夫山が図を引き締めている。図隔の右端に霊山から仙台、松島、八戸種差、北海道、樺太までを、左端には猪苗代湖と磐梯山、遙か遠くに、いつもの富士山を入れているのはうれしい限り。

桜が終わる頃ならば、吾妻小富士(図絵には吾妻富士)の山腹に残雪絵模様(ゆきがた)の雪形が現れるので注目してみたい。

なお、ほぼ構図が同じ(筆致はやや粗い)初三郎作画作品『福島市「福島及び近名勝鳥瞰図」福島市役所発行(昭和十三年ごろ)もある。